

沖美町でレモン団地の造成始まる！

☎ 農林水産課 ☎0823-43-1642

現在、広島県と連携して沖美町で農地集積※を行い、レモン団地の造成工事を行っています。今年度は、第1工区として畑地区を造成工事中で、令和7年3月のレモン苗木定植を目指しています。

本市は、参入企業「株式会社鈴生（代表取締役 鈴木貴博）」と令和4年7月、包括連携協定を締結しており、農業および関連産業の分野を始めとして、包括的に連携・協力し、地域の活性化を図ります。

※農地集積とは、地域の農地の利用及び借入れを農業経営体（法人、認定農業者等）に集中させることです。

今後のスケジュール

予定	概要
令和6年4月～	第1工区ほ場（畑地区）の整備事業の工事（農地造成等）に着手
令和7年3月頃	第1工区ほ場のレモンの定植（営農開始）
令和7年4月～	第2工区ほ場（是長地区）の整備事業の工事に着手
令和8年3月頃	第2工区ほ場のレモンの定植
令和8年4月～	第3工区ほ場（岡大王地区）の整備事業の工事に着手
令和9年3月頃	第3工区ほ場のレモンの定植
令和9年4月以降	追加農地集積エリア（是長・岡大王地区）で造成工事予定



▲(株)鈴生広島エリア担当
竹下 公雄さん
「江田島市に骨を埋める覚悟で頑張ります！」



市内公共交通機関お盆ダイヤ

☎ 企画振興課 ☎0823-43-1630



市公共交通イメージキャラクター「のるる」

市内公共交通機関では、お盆期間中、臨時ダイヤで運航（運行）する航路（路線）があります。

ご利用の際は、お間違のないようご注意ください。なお、詳しいことは、各事業者にお問い合わせください。

お盆ダイヤで運航する航路

瀬戸内シーライン(株) ☎082-254-1701

▶マップ⑥

三高～宇品航路<フェリー：所要時間約40分>

お盆ダイヤ期間：8月10日(土)～14日(水)

三高発		宇品発	
6:08	13:35	6:55	14:25
6:48	14:25	7:30	15:15
7:40	15:20	8:30	16:10
8:15	16:05	9:10	16:55
9:15	17:00	10:10	17:50
10:00	17:45	10:55	18:30
11:00	18:40	11:50	19:25
11:45	19:20	12:35	20:05
12:45	20:15	13:35	21:00

通常ダイヤで運航する航路

上村汽船(株) ☎082-251-6020

▶マップ①

切串（西沖）～宇品航路<フェリー：所要時間約30分>
※8月12日(月・祝)～14日(水)は増便する可能性があります。詳しくは事業者にお問い合わせください。

瀬戸内シーライン(株) ☎082-254-1701

▶マップ②

小用～宇品航路<高速船：所要時間約22分>

▶マップ④

小用～呉中央航路<フェリー：所要時間約20分・高速船：所要時間約10分>

▶マップ⑤

中町・高田～宇品航路<高速船：所要時間 中町～宇品約30分・高田～宇品約23分>

さくら海運(株) ☎0823-38-8988

▶マップ③

切串（吹越）～天応（呉ポートピア）航路<フェリー：所要時間約12分>

※利用状況によっては増便する可能性があります。詳しくは事業者にお問い合わせください。



バス（お盆ダイヤで運行）

江田島バス(株) ☎0823-27-5585

8月13日(火)～16日(金)は、土・日・祝ダイヤで運行します。

おれんじ号（通常ダイヤで運行）

①江田島北部線・朝夕便：江田島タクシー

☎0823-42-1151

②沖美北部線：三高タクシー ☎0823-47-0023

③沖美南部線：能美タクシー ☎0823-45-2525

通常ダイヤで運行します。



「は～い 農業委員会です」

実家の手伝いが天職に。更なる変革に挑む

vol.3

☎ 農業委員会事務局 ☎0823-43-1645

江田島市農業委員会は農業委員9名・農地利用最適化推進委員16名で構成され、農業振興のため、各地域で農地利用の最適化活動を行っています。農業委員会における委員の活動を広く市民の皆様に知っていただくため3回目の今回は、江田島町の農業委員 山田隆見さん（72歳）を紹介いたします。山田委員は江田島町に生まれ、高校を卒業後、建設会社でアルバイトを始めました。しかしながら公共事業の仕事が少なくなり、すぐに解雇をされたことをきっかけに、実家の農業を手伝うことになりました。



▲自身のハウスでキュウリを収穫する山田委員

当時、山田委員が耕作されていた江田島町北部地区では、ハウサイの指定産地として、国から認定された一大産地となっており、そのほかに、キュウリやトマト、キャベツなどの露地野菜を中心に栽培が行われていました。しかし、他の産地の台頭により、野菜価格が下落し、露地野菜中心では収入をあげることが難しくなってきました。そこで、江田島町の北部地域の多くの農家は、露地野菜からキュウリのハウス栽培への転換を図り、現在では、県内生産量トップの年間600トンを超える産地に成長しました。

「勤め人には一度となるものか」。そんな強い思いから、これまで半世紀、地元で農業に携わり続け、今では、キュウリ栽培が天職となった山田委員。

「今までの農業のやり方では、生活にゆとりがなく、やり手は少ない。新しい機械の導入や、害虫に強い品種を取り入れるなどの改革を行わなければ産地が潰れてしまう」と、強い危機感を持たれており、産地の仲間とともに、日々更なる変革にチャレンジされておられます。

山田委員は、平成29年11月に、本市の農業委員に就任され、7年目を迎えます。今後も、益々のご活躍を期待します。